

■ Concise communication : National surveillance on methicilin-resistant *Staphylococcus aureus* infection in hospitals, 2007

2007 年度 methicilin-resistant *Staphylococcus aureus* 病院感染症サーベイランス

松村 千夏* 小林 寛伊*

はじめに

日本におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 methicilin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA) の感染率を、良質なサーベイランスをおこなっている施設を対象として、毎年継続的に調査することにより、MRSA 病院感染症の状況と推移とを明らかにすることを目的としている。

1. 方 法

1999 年度よりの MRSA 病院感染率調査において、“細菌検査結果に基づくラウンド”でサーベイランス (最も精度が高いと考えられる方法)をおこなっていた施設に、継続的に調査用紙を送り¹⁻³⁾、また、新たな協力施設も得て、2007 年度における状況に関し回答を依頼した⁴⁾。併せて、今回の調査では、個々の感染症例に関する個別症例データに関し、事情の許す範囲での提供を依頼した。個別症例データとして、性別・年齢・診療科・診断名・治療内容・感染部位・感染症の転帰などを得た。電子媒体の調査用紙はメールにて回収した。

統計処理は統計ソフト「JMP8.0」を使用した。

2. 結 果

30 施設より有効回答を得た。その結果は表 1 の通りで、30 施設の合計新入院患者 359, 371 例に対して、全 MRSA 新感染例は 1, 983 例、0. 55%であった。

各症例に関する個別症例データの提供を得られた施設

は、14 施設であり、病棟別感染部位は、表 2 に示す通りで、全 MRSA 感染症例 662 例において、肺炎が 199 例 30. 1%と最も多く、手術部位感染 180 例 27. 2%、一次血流感染症 92 例 13. 9%、皮膚/軟部組織感染症 75 例 11. 3%と続いた。

MRSA 感染症の転帰 (生死) と性別・年齢・感染部位各項目の間で有意差があったのは、年齢の項目で、高齢な症例ほど死亡という転帰をとる傾向にあった (ロジスティック回帰分析、 $p=0. 0016$)。転帰と感染部位との関

表 1 MRSA 病院感染症

細菌検査結果に基づくラウンドによるサーベイランス

年度	施設数	症例数	MRSA病院感染例	
1999	11	105, 217	1, 216	1. 15%
2000	14	129, 095	1, 425	1. 10%
2001	21	207, 575	1, 881	0. 91%
2002	27	283, 247	2, 391	0. 84%
2003	41	429, 278	3, 495	0. 81%
2004	37	417, 041	2, 990	0. 72%
2005	38	431, 370	2, 896	0. 67%
2006	37	413, 312	2, 708	0. 66%
2007	30	359, 371	1, 983	0. 55%

小林寛伊, 環境感染 2009;24 : 134-136.

表 2 MRSA感染部位と病棟 : 14施設の集計

感染部位	病棟						合計	
	ICU	NICU	救急	緩和	一般病棟	その他		
表層切開創SSI*	1	0	0	0	40	0	41	6. 2%
深部切開創SSI	8	0	0	0	57	0	65	9. 8%
臓器/体腔SSI	3	0	0	0	71	0	74	11. 2%
一次血流感染	11	0	6	0	75	0	92	13. 9%
透析関連感染	1	0	0	0	4	0	5	0. 8%
肺炎	40	0	11	0	148	0	199	30. 1%
尿路感染	0	0	0	0	24	0	24	3. 6%
皮膚/軟部組織感染	2	2	5	1	64	1	75	11. 3%
菌血症	2	8	0	0	14	0	24	3. 6%
腸炎	5	0	1	0	30	0	36	5. 4%
その他	3	0	0	0	24	0	27	4. 1%
合計	76	10	23	1	551	1	662	100. 0%

* : Surgical site infections手術部位感染 2007年4月-2008年3月

ICU : Intensive care unit, NICU : Neonatal ICU、救急 : 救急 (救命救急) 病棟、緩和 : 緩和ケア病棟

* 東京医療保健大学大学院

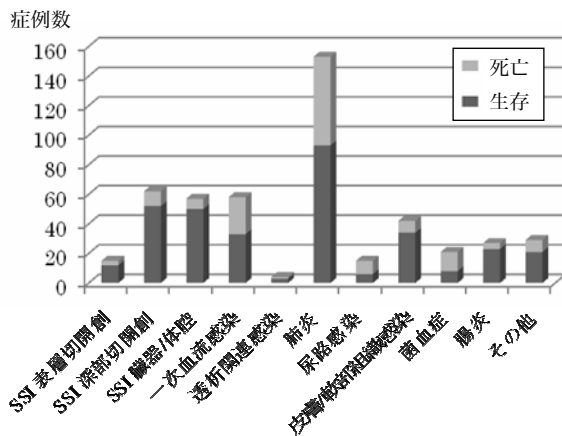


図1 14施設の感染部位による転帰 (2007年4月-2008年3月)

連は図1に示す通りで、感染部位によっては症例数が少ないため、統計的に有意差を示せなかったが、死亡する割合が最も高かったのは、菌血症の13/21例、61.9%で、尿路感染症9/15例、60%、一次血流感染症25/58例、43.1%、肺炎60/153例、39.2%と続いた。

3. 考 察

1999年以来の全経過における感染率の変化に関して、統計学的検討はおこなっていないが、増加傾向は見られず、ほぼ安定しており、むしろ減少傾向が認められる。欧米におけるMRSA病院感染症の増加傾向にも拘わらず、日本においてこのような傾向が存することは、感染

制御策が効を奏していると考えられる⁵⁾。

MRSA肺炎は難治で、死亡する割合が高い、また手術部位感染は27.2%と多いことを考えると、MRSA肺炎と手術部位感染は、今後の制御策上の重要課題といえる。

また皮膚/軟部組織感染症が11.3%認められたことは、市井型MRSAの施設内感染に対する十分な配慮が必要であることを示唆している。

今回得られた各症例に関する個別症例データは性別・年齢などごく限られたデータであるため、上述のような各項目と転帰との関係をどこまで断言できるかは議論の余地がある。患者の重症度など詳細なデータを基にしてさらに考察する必要があると考える。

謝辞

御協力頂いた施設の皆様方に心より感謝いたします。

■ 文 献

- 1) 小林寛伊. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌病院感染症発生状況に関する研究. 環境感染 2004; 19: 401-403.
- 2) 小林寛伊. 2004年度のMRSA感染症サーベイランス. 環境感染 2005; 20: 279.
- 3) 小林寛伊. 2006年度のMRSA病院感染症サーベイランス. 環境感染 2008; 23: 72.
- 4) 小林寛伊. 2007年度のmethicillin-resistant *Staphylococcus aureus* 病院感染症サーベイランス. 環境感染 2009; 24: 134-136.
- 5) Klein E, Smith DL, Laxminarayan R. Hospitalizations and deaths caused by methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*, United States, 1999-2005. *Emerg Infect Dis* 2007; 13: 1840-1846.